

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-07

学校名・団体名	南会津町立南郷小学校
HPアドレス	http://www.minamiaizu.gr.fks.ed.jp/?page_id=164
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	『地域の人・自然・文化とひびき合い、 ふるさとを誇る心を！』

〈活動・研究の意義、目的〉

ふるさと南会津とひびき合い、感性を高め、よりよく発信しようとする心を育むことを目的とする。










本校は、福島県南西部の南会津町にある全校生76名の小学校である。児童数減少に伴う学校統合が、東日本大震災の混乱を経て完了し、平成24年4月から新たな歴史を歩み始めた。南郷地域は、標高530mの山間部にあり、自然に抱かれ癒される感覚を味わえる環境にある。湿原や溪流やスキー場などの観光資源と、ブランドトマトや地酒といった主力産品が地域産業の軸となっている。

統合以来、学校には、児童が地域と関わり地域の良さを実感する活動を重視してほしいとの声が数多く寄せられる。本校の教育目標『ひびき合い、ともに高まる南郷の子』には、人、自然、文化とひびき合う子どもを育もうという願いが込められている。そのような経緯から、本校では、地域の方々の協力を得て多様な体験活動を教科、道徳、総合的な学習に取り入れてきた。更に道徳では、「自分自身を見つめ、よりよい自分になろうとする児童の育成」の共同研究を進め、心の教育を重視してきた。学校統合に伴う大きな環境変化や、震災と原発事故に端を発する不安に向き合い、誇れる居場所をもう一度自らの中に築くことを願っての取り組みである。

これまでの取り組みを発展させ、地域の良さを実感する体験活動と心の教育をより効果的に関連づけるとともに、よりよく発信するという視点を加えて、ふるさとを誇る心を育むことを目指した。

1 活動時期と内容

総合的な学習と教科、道徳をつないで、「地域のよさ」を実感する体験活動とよりよく発信する体験活動を、以下のように展開した。各学年の主テーマは、3学年「おいしい南郷トマト」、4学年「美しい水」、5学年「豊かな自然」、6学年「南郷の歴史と福祉」である。加えて、自然、文化・歴史、産業・公共サービスを手がかりにする活動を、各学年1つは位置づけて実施した。地域の方々に案内役となっていただくことで、熱意を感じ取り、自分が生活している地域を支えている人の力を児童が実感することを重視している。

活動時期	地域の良さを実感しよりよく発信する体験活動		
	自然を手がかりに	文化・歴史を手がかりに	産業・公共サービスを手がかりに
6月	6/18 駒止湿原散策 3年 6/23 尾瀬湿原散策 4年 	6/25 河原崎城趾訪問 6年 	6/18 キノコ植菌体験 5・6年 6/30 トマト農家訪問 3年 
	6/15 南郷小WEB製作・公開		
7月	7/8~10 漁村生活体験 5年 	7/8~10 漁村生活体験 5年 	7/1 水源地訪問 4年 
	8/28 川の中流学習 5年 9/1 川の上流学習 5年 9/29 農園訪問 5年 	9/5 地域豊年祭り参加 全学年 9/25 地域体育祭参加 全学年 9/29 絵手紙教室 3・4年 	9/18 キノコ収穫 5・6年 
10月	10/13 地層見学 6年 	10/22 祖父母交流会(伝統遊び) 全学年 	10/6 保育所訪問 6年 10/15 特老施設訪問 6年 10/16 選果場訪問 3年 
	10/31 学習発表会(将来の夢中間発表) 全学年		
11月		11/11 伝統炊飯体験 4年 	11/4 保育所訪問 6年 11/17 特老施設訪問 6年 11/19 酒蔵訪問 4年 
	12月 	12/3 書道教室 3~6年 12/15 伝統料理体験 5年 	
1・2月	1/20 テレビ会議 5年 2/2,4クワカンスキー教室 4~6年 	1/25 囲炉裏調理体験 3年 2/3 節分集会 全学年 	1/29,2/4,19 スキー教室・大会 全学年 2/26 木工所訪問 5年 

7月の漁村生活体験は、町の事業として千葉県を会場に実施される特色ある宿泊体験学習である。折角の機会なので、自然の違いや伝統文化の違い等の比較に加えて、遠隔地交流の機会として利用を試みた。児童にとってネット越しの交流を実感し易いテレビ会議を軸に展開を図り、相手校のネットワーク環境の課題を乗り越えて、ようやく1月にスカイプを使ったテレビ会議体験が実現できた。

9月の「豊年祭り」「体育祭」は地域行事で、例年全校生が参加している。体育祭は、近年珍しいケースだが、中学校と共に学校行事に位置づけている。児童が、楽しむ側の立場と、楽しみを支える側の立場の両方に立ち、地域の中で感謝の言葉をもらい感謝を伝える経験をする機会となっている。



南郷豊年祭り

伝統料理や書道、絵手紙は古くから今に至るまで地域でとても大切にされている文化である。湿原や溪流やスキー場は観光資源として、地酒や南郷トマトは主力産品として地域産業の柱となっている。携わる人々の多くが顔見知りだということも相まって、その苦心や情熱を、児童は体験活動を通して感じ取る貴重な機会となっている。



南郷体育祭

6月には、南郷小WEBが完成し、発信する場として利用することを児童・保護者・地域に紹介した。これまでも手紙や新聞作りや発表会という形で子ども達は発信を行ってきているが、ネット文化の適正利用の学習も含めて発信の選択肢を広げようと考えた。町の整備事業との関わりや交流相手校の環境の課題があり、よりよい発信に向けた取り組みは計画どおりに進まない部分があったが、WEBを介した継続的な発信やテレビ会議を介した交流体験の実践から、情報発信の選択肢の一つとして可能性を見出すことができた。

2 成果や子どもたちへの効果等

○地域を誇りに思う心情、地域コミュニティの一員としての自覚（児童）

体験活動を通して、児童が地域行事に参加する一方、学校行事に地域の方が数多く来校されることがごく自然な姿として根付いている。この風土の中で、児童が楽しむ側と楽しみを支える側の両方に立って、地域との関わりを積み重ねることで、地域コミュニティの一員としての自覚が育まれ、地域を誇りに思う心情が高まっている。

（児童アンケート調査「南郷が好きですか」の回答「とても好き+まあまあ好き」が95%）

○地域を学ぶための良質な環境（保護者・地域）

6年間を見通した体験活動に、保育園児から高齢者までふれあう相手の年齢的バリエーションを持たせると共に、自然・文化・歴史・産業・公共サービスの分野的バリエーションを持たせて、系統的に実践している。これにより、児童が地域社会に対する理解を深め、自分の居場所（関わり場）を見出すことにつなげたいと考えている。協力して下さる地域の方々も、保護者であるか否かに関わらず体験活動への関与を望ましいものと捉えてくださり、学校と地域の連携の基盤が築かれている。

（保護者アンケート調査）

保護者アンケート項目	「そう思う」+「ややそう思う」の回答
「子どもは思いやりや命の大切さなど豊かな心が育っている」	99%
「子どもは地域の人や自然と関わる体験の機会を得ている」	95%
「学校は学校だより・学級だより等で教育の方針や活動の様子を伝えている」	100%
「家庭では子どもから、学校の様子をよく聞いている」	96%
「家庭ではPTA活動や学校行事に積極的に参加している」	96%

○よりよい発信に対する意識向上（児童・職員）

発信するという見通しを持つことで、体験活動がより能動的なものになると考える。様々な相手への発信の体験を積むことで、伝え方の工夫を意識したり、何を取材すべきか意識したりするようになる。見慣れたと思っている地域の自然や伝統も、切り口を変えて見直すことができる。学びの質を高めるよりよい活動を計画していきたい。

また、情報モラルに関する調査の結果、本校児童の46%がネット接続可能な端末を所有し、1日平均1時間以上ネット接続している児童が19%いるという実態が分かった。保護者も教員も、不安と必要性の狭間でどう指導していくべきか揺れている。南郷小WEBによる情報発信は、家庭での話題が広がることにもつながり、望ましい発信のモデルを示すことができた。禁止するだけでなく、望ましい使い方と危険な使い方を共に指導していくことを目指し、児童が発信する機会を計画的に積み重ね、よりよい発信のための理解とスキルとモラルを一層育みたい。